

『本屋さんのダイアナ』(2014年)

柚木 麻子／著 新潮社

大穴と書いてダイアナ。ダイアナは自分の名前が大嫌い。夢ははやく大人になって、会ったことのない父親を見つけることと名前を変えること。孤独を抱えていたダイアナは小学校2年生になった時、綾子と出会います。金色に染めたパサパサした髪のだいアナと真っ黒なおかっぱ頭の上品な綾子。正反対にみえる二人は一目で惹かれあい、親友になります。二人が傷つき悩みながらも試練を乗り越えて、大人になっていく物語です。



『シャーロック・ノート学園裁判と密室の謎』

(2015年)

円居 挽／著 新潮社

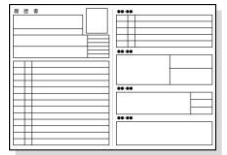
主人公の^{つるぎみねなる}剣峰成は、一見女性にもみえるような細見のスタイルに、左耳のみ銀のピアスという出で立ちの美少年です。そんな彼が通うのは都内屈指の進学校。そこはなんと探偵を養成する高校です。学園裁判で行われる論理バトルや、連続密室爆破事件。青春学園物語とミステリーを同時に味わえる本書は、セリフが多く、どんどんページをめくっていけるので、普段はマンガが好きという方にもおすすめの一冊です。



『何者』(2012年)

浅井 リョウ/著 新潮社

就職活動の情報交換が縁で、顔を合わせるようになった5人。留学経験者、元恋人同士、劇団に携わっていた者など、登場人物は個性豊かだ。初めはお互いに頑張ろうと、同じ部屋に集まり、エントリーシートを作成したり、面接の話や自分が進もうとしている会社のことについて話をしていた。時にはお酒を飲んだり楽しそうにみえた。しかし、時が流れ、先が見えず焦りの色が出てきた頃、表面上は「一緒に」を保っていた関係が歪みだした。



『一つ屋根の下の探偵たち』(2017年)

森川 智喜／著 講談社

真面目にコツコツがモットーの「アリ」型探偵の町井、睡眠と音楽が大好きな「キリギリス」型探偵の^{てんか}天火、そしてスランプ気味エッセイ作家の主人公の三人はひょんなことから同居することに。町井と天火がフランス料理を賭けて解決に着手した通称「アリとキリギリス事件」の顛末を、主人公は自身の原稿のために追うがー。

その^{せいざん}凄惨で意外な真実とは。



『午後からはワニ日和』(2012年)

似鳥 鶏／著 文藝春秋

^{かえでがおか}楓ヶ丘動物園で働く動物好きの飼育員・桃本。動物の中にもモモという名前がいるから人間のモモなんて呼ばれてたりもする。周りの人たちは個性的だけれどみんな動物が大好き！

でも、そんな平和な動物園で盗難事件が起きた！盗まれたのは……ワニ！？どうしてイリエワニなんか盗んだのだろう？現場には『怪盗ソロモン』と名乗るメッセージが残されていた。

平和な動物園に突然訪れた大事件。犯人の動機は？なぜ動物を攫うのか？ユニークな動物園ミステリーです。



『国語、数学、理科、誘拐』(2013年)

青柳 碧人／著 文藝春秋

加賀見成一は個人塾「J S S進学塾」を経営している。小学5年生から中学3年生までが対象だ。地域密着型の塾として、アットホームな雰囲気を作り出し、毎年多くの生徒を集めている。そんなある日、J S S進学塾あてに塾生の山下愛子を誘拐したと犯人からメールが送られてきた。学生アルバイト講師の5人（全員J S S進学塾の卒業生）が犯人からおくられてくる出題を解きながら、愛子を助けるため奮闘する。

